

取扱説明書

自走式雑草刈機

“オートモアー”

AM80



80-1455-00200



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
- 安全性維持のため、本紙定期点検表に従い年次点検をお受けください。（有料）
- 本製品の保守には必ずメーカー純正品をご使用ください。

株式会社

オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目次

項 目	頁
〈はじめに〉	1
〈本製品の規制について〉	1
〈保証とサービスについて〉	1
〈定義とシンボルマークについて〉	2
〈安全に作業をするために〉	2
〈各部の名称〉	6
〈各部のはたらき〉	7
〈機械を他人に貸すときは…〉	9
〈上手な運転のしかた〉	10
運転前の始業点検.....10	走行・旋回・停止のしかた.....13
エンジン始動・停止のしかた.....10	トラックへの積み降ろしのしかた.....15
〈上手な作業のしかた〉	16
草刈り作業.....16	
〈長期保管のしかた〉	19
〈各部オイルの点検・交換・注油のしかた〉	20
ミッションオイルの注油・点検・交換.....20	
エンジンオイルの注油・点検・交換.....21	
各部への注油のしかた.....21	
〈各部の点検・整備・調整のしかた〉	22
点火プラグの点検・調整のしかた.....22	燃料フィルターボットの清掃のしかた.....24
エアークリーナーの清掃のしかた.....22	そのほかの点検.....24
タイヤ空気圧の調整のしかた.....23	各部ワイヤー・ベルト調整のしかた.....25
燃料パイプの点検のしかた.....23	
〈ナイフの点検・交換・修正のしかた〉	28
ナイフの点検・交換.....28	ナイフの修正.....29
〈仕様〉	30
〈工具袋・同梱品明細〉	31
〈消耗品明細〉	31
〈定期自主点検表〉	32
〈刈り取り性能診断〉	33
〈エンジンの不調とその処理方法〉	34
〈販売店・営業所リスト〉	

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。



警告

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

《重要なお知らせ》

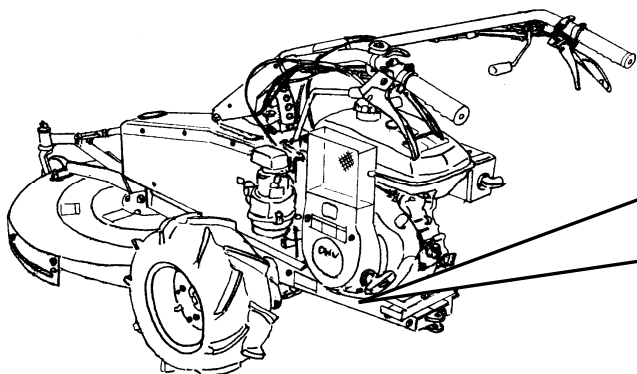
- a) 性能・耐久性向上及びその他諸事情による部品等の変更で、お手元の製品の仕様と本書の内容が一部一致しない場合があります。
- b) 本書の内容の一部又は全部を無断で複写複製(コピー)する事は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので予めご注意ください。
- c) 本書では説明部位が具体的に理解できるよう、写真、イラストを用いています。説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
- d) 本書は日本語を母国語としない方のご使用は対象としていません。

《本製品の規制について》

本製品は農業用機械として開発しておりますので、これ以外の用途(レンタル等、作業者が特定されないような使われ方)では使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。又、地を這うように伸びるツタ、ツル等の草については刈取れない場合もあります。

《保証・契約書・免責事項》

- ・ 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を良く読んで理解しておいて下さい。
- ・ 本製品の保証期間は、新品購入から **1 年**、又は **50 使用時間**(請負業務用については **6 ヶ月間**、もしくは **50 使用時間**)の内どちらか早い時点で到達した方となっています。
- ・ 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業側も安全への配慮が必要です。
- ・ 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店(以降販売店)までご相談下さい。
- ・ 製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期自主点検表」及び「年次点検表」に記載のある定期的な点検・整備を必ず最低毎年 1 回は販売店まで依頼しましょう(有料)。これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を越えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
- ・ ご不審な点及びサービス等に関するご質問は、販売店までご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印又は貼付されています。)]を併せてご連絡下さい。



種 類 Description	ローラーモ-7(歩行型)
型 式 名 Model	AM80
製造番号 Serial No.	0000000000
発 売 元	(株)オーレック
株式会社 オーレック OREC CO., LTD. MADE IN JAPAN FABRIQUE AU JAPON	

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後 9 年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

《 定義とシンボルマークについて 》

「危険」、「注意」、「参考」について、本取扱説明書では、次のような定義とシンボルマークが使用されています。これらは安全で快適な作業を行っていただくために、特に重要な部分です。注意深くお読み頂き、十分理解して必ず守って下さい。



危険： 人身事故防止用

遵守しないと人身事故が発生し、場合によっては 死亡 の可能性もある。



注意：

製品自体の損傷防止用

遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与える。

参考：

操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項。

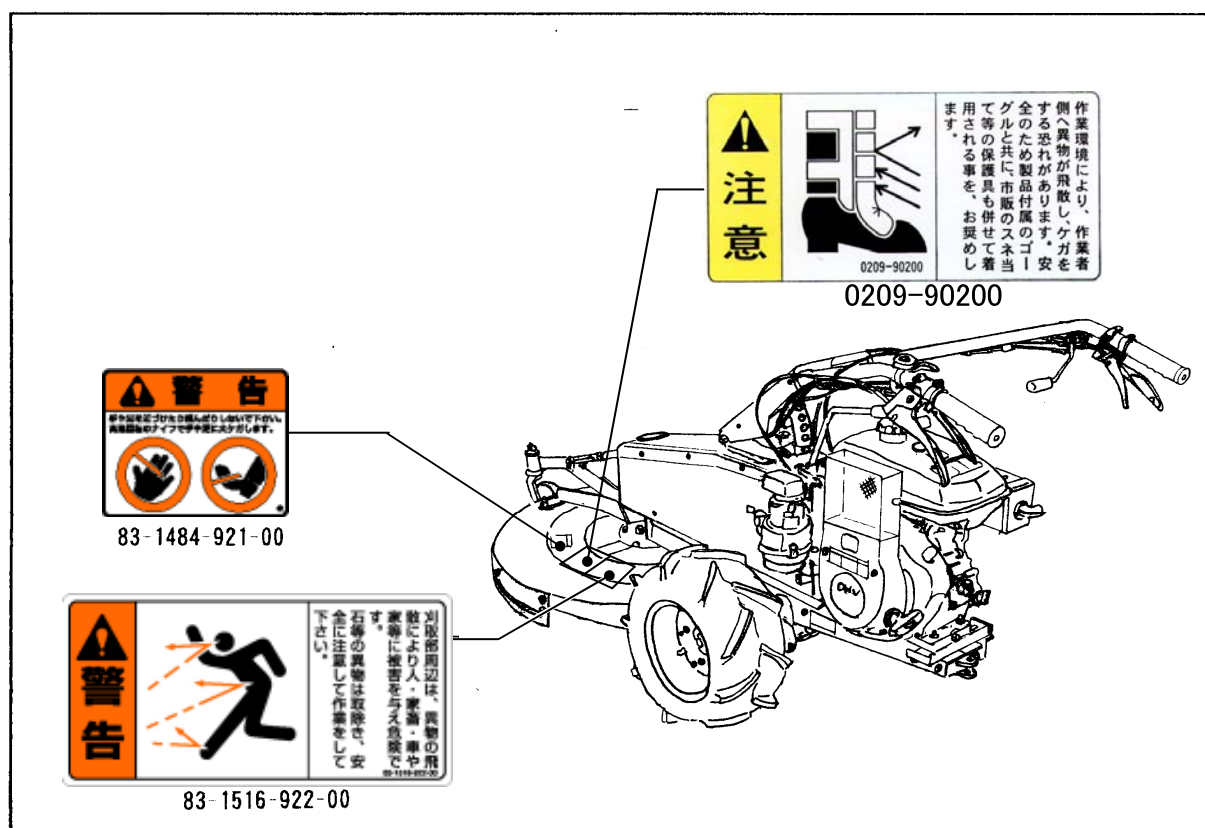
《 安全に作業をするために 》 …重要危険項目…

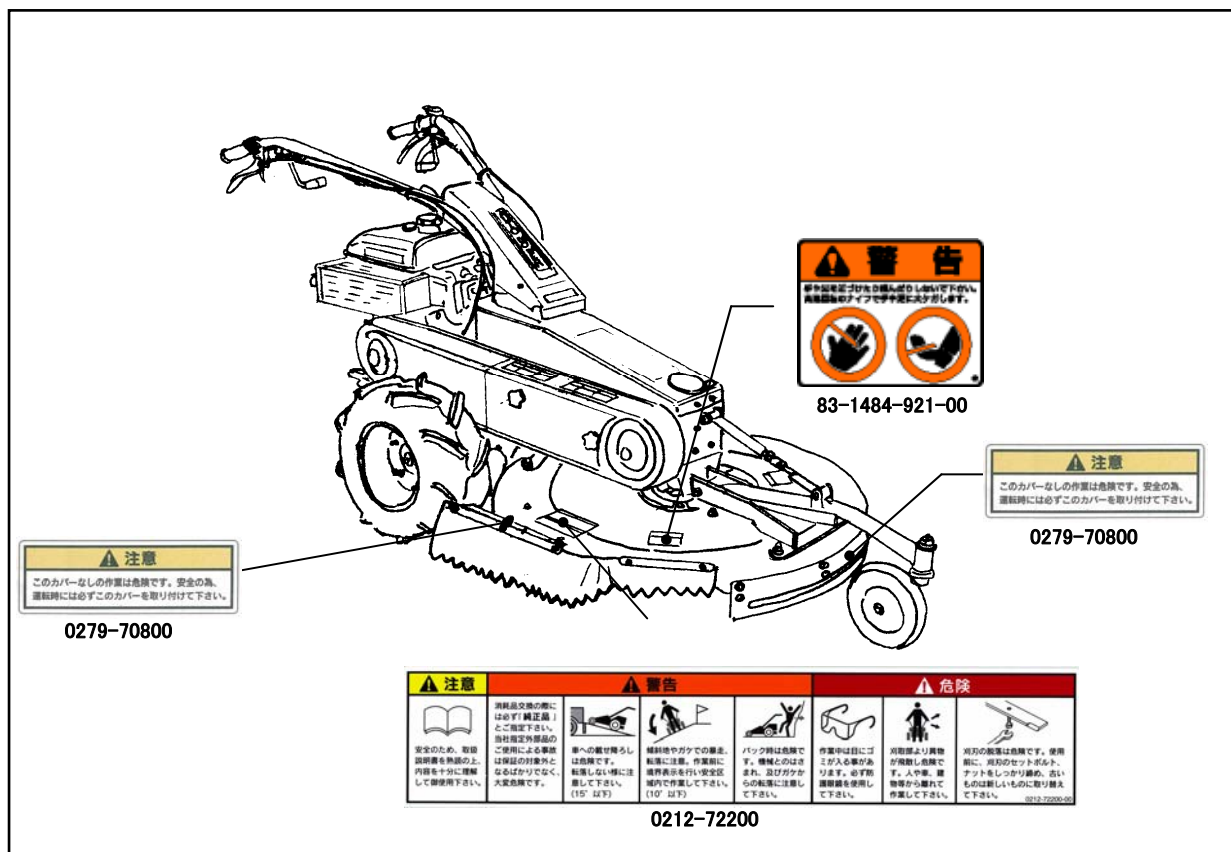
（ 1 ） 危険表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

◇…危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈27頁…消耗品明細 参照〉

◇…本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。





(2) 作業前の注意

- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の人には使用しないで下さい。
- ・作業者の体調が悪いときや過労ぎみ、飲酒時のときは作業しないで下さい。

又、子供や妊婦にも作業させないで下さい。

- ・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。
- ・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等がないことを確認し、作業中は、半径10m以内にこれらのものを近付けないで下さい。

! 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

- ・必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。

! ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかりと締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

! ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。

! 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・椅子等の乗用装置のないもの（歩行タイプ）は乗用できません。これらのものに、人や動物を乗せないで下さい。
- ・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・ナイフクラッチと走行クラッチが「」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤーを調整して下さい。

- ・10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。

 斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に身体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では、本機の山側にはいないようにして下さい。

- ・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
- ・狭い橋の上を走行する場合、転落の危険性があります。狭い橋等は走行しないで下さい。

 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

〈 3 〉 燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラーの温度が十分下がってから行って下さい。

〈 4 〉 始動時の注意

- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・走行クラッチ、ナイフクラッチを「」位置にし、変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動して下さい。
- ・回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

〈 5 〉 積み降ろし時の注意 〈15頁…参照〉

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車止めをして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み込みは「①速」位置で、降ろす時は「」位置でどちらもゆっくり行いその他の位置には絶対入れないで下さい。

＜ 6 ＞ 作業中の注意

- ・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。
- ⚠ 排気マフラー付近は熱いため、火傷をしないよう、手等を近付けないで下さい。
- ・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。
- ・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。
- ⚠ 刈取部より石などの異物が飛散し危険です。人や車、建物などからはなれて十分ご注意の上作業して下さい。
- ⚠ 回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、身体を近付けないで下さい。
- ⚠ 冷却風の吸込口、シリンダー付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアークリーナー内部の清掃も同時に行ってください。
- ⚠ 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後には作業を始め、安全のため、通常よりも高刈りで作業をして下さい。
- ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。
- ・作業中、石、木株などに当たった場合は、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲りの有無を調べて下さい。

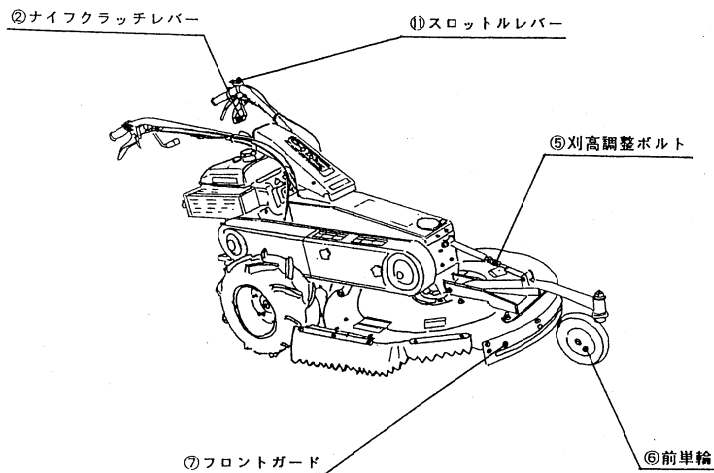
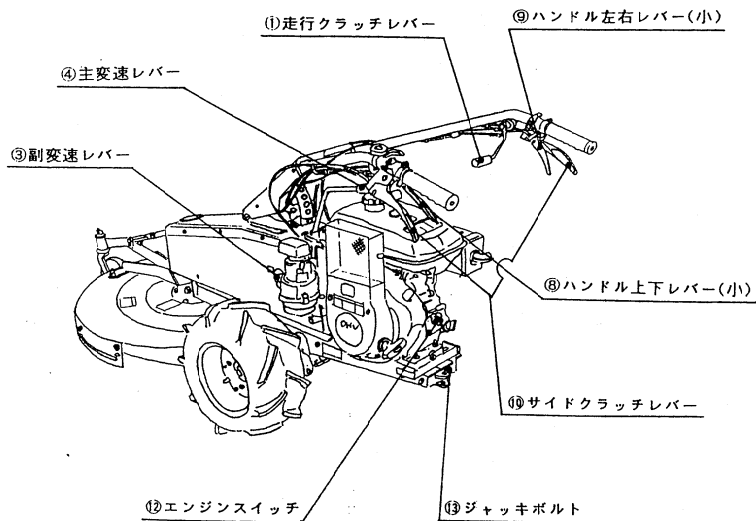
＜ 7 ＞ 作業終了後の注意

- ・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。
- ・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。

＜ 8 ＞ 点検・整備時の注意

- ・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。
- ⚠ ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。
- ・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。
- ・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。
- ⚠ ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。
- ・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。
- ・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラーやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。
- ・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。

《 各部の名称 》



《各部のはたらき》

① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを手前に引き起こすと「」の状態、押し下げると「」の状態になります。

- 走行クラッチレバーを右手の親指で押し下げるとハンドルから手を離す事なくワンタッチで「」の状態にすることができます。

② ナイフクラッチレバー

ミッションから刈取部への動力を断続させます。走行クラッチレバーと同様にレバーを手前に引き起こすと「」位置、押し下げると「」位置になります。

- ナイフクラッチレバーの「」操作は、左手親指でのワンタッチ操作はできません。しっかりとレバーを握って操作して下さい。
- ブレーキ付き多板クラッチの採用で、ナイフクラッチレバーを一気に「」位置にするとナイフの回転は短時間(約3秒以内)で停止します。
- ナイフは高速で回転するために、ナイフクラッチレバーを一気に「」位置にするとエンジンがストップする場合があります。ナイフクラッチレバーの「」操作は特にゆっくりと行って下さい。
- 安全のため、移動時・旋回時・トラックへの積み降ろし時にはナイフクラッチレバーは必ず「」位置にして下さい。



危険：

走行クラッチレバーの位置に関係なく、ナイフクラッチレバーを「」位置にするとナイフは高速回転します。操作方法には十分注意して下さい。

③ 副変速レバー

このレバーの操作により変速レバーでの変速段数が倍となります。

操作は貴方の方へ引くと「」位置、先へ押すと「」位置になります。



危険：

このレバーは常に「」・「」どちらかの位置に確実にに入れておいて下さい。

確実に入っていないと作業中負荷がかかった場合にギヤが抜け、「中立」の状態となり特に傾斜地での作業の場合には暴走等、大変危険です。

参考：

このレバーが確実に入っていないと主変速レバーがどの位置にあっても本機は常に中立「」の状態になります。

④主変速レバー

走行速度の選択に使用します。副変速レバーの操作と合わせて「前進」が4段階、中立「**N**」が2ヶ所、後進「**R**」が2段階です。

「前進」は【低速】①速「**低** - ①」⇒②速「**高** - ①」⇒③速「**低** - ②」⇒④速「**高** - ②」

【高速】の順番で速度が速くなります。〈以下、①速・②速・③速・④速と表示します。〉

「後進」は**R1**「**低** - **R**」⇒**R2**「**高** - **R**」の順番で速度が速くなります。

〈以下、**R1**・**R2**と表示します。〉

- 安全のため副変速レバー、主変速レバーの操作は走行クラッチレバーを「**切**」位置にし、本機を停止させた後、確実に行ってください。

⑤刈高調整ボルト

刈高さの調整をするときに操作します。操作はロックボルトを緩めた後に行い、調整後は必ずロックナットをしっかりと締め付けておいて下さい。

◇…刈高調整用前輪を低くし過ぎて作業を行うと以下の様な弊害を生じますので十分に注意して作業をして下さい。

- (1)石等、異物の飛散が多くなる。
- (2)泥までも草と一緒にかみこんでしまい、力を取るばかりでなく、刈り取られた草の吐きが悪くなる。
- (3)ナイフの摩耗が極端に早くなる。ナイフが折れる。
- (4)本機各部に無理がかかり、多板クラッチの焼き付き等、故障の原因となる。

参考：

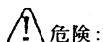
- ・刈取圃場に凸凹が多い（うねりがある）場合には凸の方に刈高さを合わせ、極力泥や石等の異物をかみこませないように調整して下さい。
- ・ロックナットを締め付けないままで作業を続けると作業中の振動で刈高が変わってしまう恐れがあります。

⑥前単輪

スラストベアリングの採用により旋回方向へハンドルを振るだけで素早く前輪の向きを変えることができます。

⑦フロントガード

ナイフカバーからの石やその他の異物の飛散を防止します。作業状況に応じて上下2段に調整することができます。



危険：

これを取り外したままでの作業、又はこれの左右を入れ替えての作業は絶対にしないで下さい。ナイフが剥き出し状態となり、作業中の異物の飛散により作業者はもちろん周囲にも甚大な被害を及ぼす恐れがあります。

⑧ハンドル上下レバー(小)

ハンドルの左側にある小さなレバーで、作業状況又はオペレーターの体格に応じてハンドルの高さを上下4段階に調整することができます。

⑨ハンドル左右レバー(小)

ハンドルの右側にある小さなレバーで、作業状況に応じてハンドルの位置を左右にそれぞれ2カ所、中心に1カ所、合計5カ所で固定することができます。

⑩サイドクラッチレバー

本機の方向を変える時に操作します。

曲がる側のサイドクラッチレバーを握り、ハンドルを押し下げて刈取部を地面より少し浮かして旋回して下さい。



危険：

旋回する場合には安全のため、必ずナイフクラッチレバーは「」位置にしてナイフの回転が完全に停止した後旋回して下さい。

⑪スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

⑫エンジンスイッチ

エンジンの「運転」・「停止」の操作を行います。

⑬ジャッキボルト

ワイヤーアジャストだけではベルトの張りの調整ができない場合に、このボルトによりエンジンの位置を前後にずらす事によってベルトの張りを調整します。

《 機械を他人に貸すときは… 》

所有者以外の人には作業させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業するように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」を貸してあげて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまう。

《 上手な運転のしかた 》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈32頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

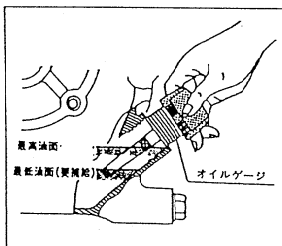
⚠ 危険：本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジン始動・停止のしかた

⚠ 危険：

- ① 締め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。
 - 締め切った室内でエンジンを始動すると …
有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- ② ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③ エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。
- ④ エンジンの暖機運転は、締め切った部屋では行わないで下さい。
- ⑤ エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

エンジン始動のしかた



- ① エンジンオイルを確認して下さい。
- ② 給油栓がオイルゲージを兼用しています。
オイルゲージの上と下の目盛線の間にオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

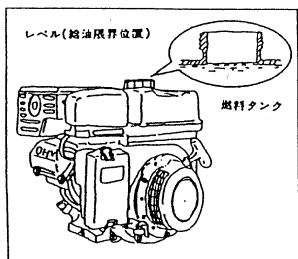
※注意：

エンジンは水平にして給油栓はねじこまずに差し込んで点検して下さい。

参考：

使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い別けて下さい。

□ …	夏期(10℃以上)	SAE30、SAE10W-30、又はSAE40
	冬季(10℃以下)	SAE5W20X又はSAE10W-30



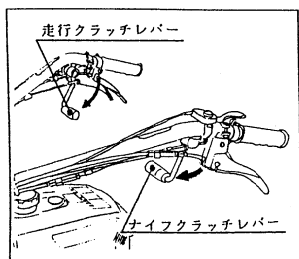
②燃料を確認して下さい。〈タンク容量は30頁参照〉

燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

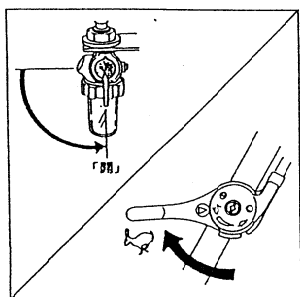


危険：

- ・燃料を入れるときには必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- ・エンジンとマフラーが冷えているのを確認した後入れ過ぎて燃料をこぼさないよう注意し、もしこぼれた場合はきれいにふきとって下さい。

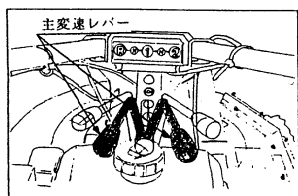


③走行クラッチレバー、ナイフクラッチレバーは共に「**切**」位置にして下さい。

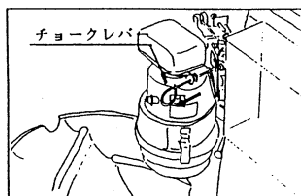


④燃料コックを「開」位置にして下さい。

⑤スロットルレバーを操作し、「**合**」位置にして下さい。

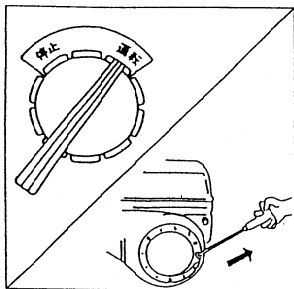


⑥主変速レバーを中立「**N**」位置にして下さい。

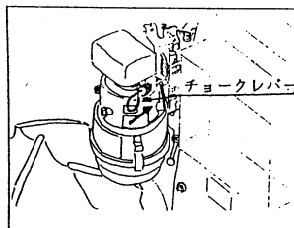


⑦チョークレバーを操作し、チョーク弁を「閉」位置にして下さい。

参考：エンジンの暖機が済んでいる場合には、
チョークレバーの操作は必要ありません。



- ⑧エンジンスイッチを「運転」位置にし、スターターノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ります。エンジン始動後は直ちにスターターノブをゆっくりと元の位置に戻して下さい。

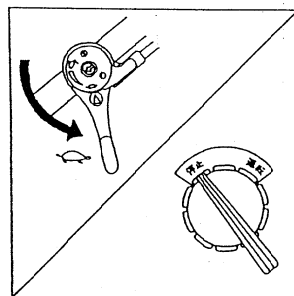


- ⑨エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を「開」位置にして下さい。

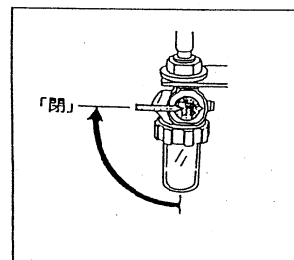
※注意：

- ・エンジン始動後は負荷をかけずに約5分間は低速側で暖機運転をして下さい。
- ・暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命を延ばします。

エンジン停止のしかた



- ①スロットルレバーを「閉」位置にし、エンジンスイッチを「停止」位置にするとエンジンは停止します。



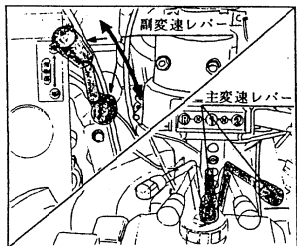
- ②最後に燃料コックを「閉」位置にして下さい。

走行・旋回・停止のしかた

⚠ 危険：

- ・所有者以外の人には使用させないで下さい。
- ・走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
- ・勾配が10°以上の傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。

走行のしかた



①エンジンを始動させて下さい。

〈10頁…エンジン始動のしかた参照〉

②副変速レバーを「**低**」もしくは「**高**」位置に確実にに入れて下さい。

③主変速レバーを「**①**」もしくは「**②**」位置に確実にに入れて下さい。

⚠ 危険：

変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあり大変危険です。
ギヤが入りにくいときには無理に入れずに走行クラッチレバーを「**入**」方向へ少し操作したうえで再度、確実に変速操作を行って下さい。

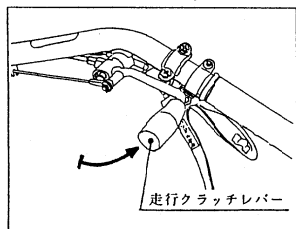
参考：

「前進」が4段階で【低速】①速「**低**」-①⇒②速「**高**」-①⇒③速「**低**」-②⇒④速「**高**」-②

【高速】の順番で速度が速くなります。

「後進」が2段階で「**R1**」「**低**」-**R**⇒「**R2**」「**高**」-**R**の順です。（以上副変速レバー「**高**」⇔「**低**」の操作も含む）各変速位置の間にはそれぞれ中立「**N**」位置が2ヶ所あります。

●安全のため「低速」側でスタートし、状況に合わせて徐々に「高速」側に変速するようにして下さい。

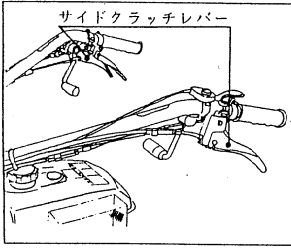


③スロットルレバーを「**開**」と「**閉**」との中間位置にし、走行クラッチレバーを引き上げて「**入**」位置に入ると走行します。

⚠ 危険：

・安全のため、走行の際は刈取部が石やその他の障害物に接触しないような位置に調整して下さい。又、ナイフクラッチレバーは絶対に「**入**」位置にしないで下さい。ナイフが回転し非常に危険です。

旋回のしかた

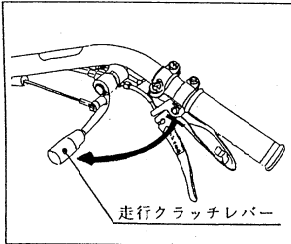


- ① 旋回する方のサイドクラッチを握り、ハンドルを振って行って下さい。

※注意：

- ・周囲に十分注意しながら【低速】側で旋回して下さい。

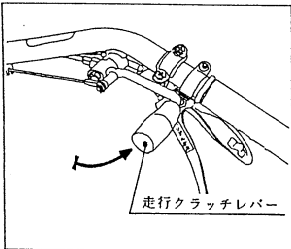
変速のしかた



- ① 走行クラッチレバーを「**切**」位置にして下さい。
● 右手の親指でレバーを押し下げることにより、ハンドルから手を離すことなく「**切**」位置にすることができます。

※注意：

走行クラッチレバーを「**入**」位置のまま主変速レバー及び副変速レバーの操作を頻繁に行うと危険であると同時に故障の原因にもなりますので絶対に行わないで下さい。

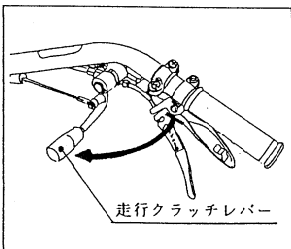


- ② 主変速レバー及び副変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に入れ換えて下さい。〈13頁参照〉
- ③ 走行クラッチレバーを「**入**」位置にして、再発進して下さい。

参考：

「前進」④速「**高**」位置は移動専用とし、この位置での作業はしないで下さい。速度が速いために非常に危険です。

停止のしかた



- ① 走行クラッチレバーを「**切**」位置にして下さい。
● 右手の親指でレバーを押し下げることにより、ハンドルから手を離すことなく「**切**」位置にすることができます。

- ② エンジンを停止して下さい。

〈12頁…エンジン停止のしかた参照〉

- ③ 主変速レバーを中立「**N**」位置にしておいて下さい。

〈11頁参照〉



危険：

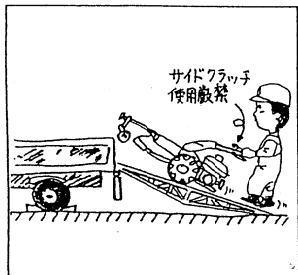
本機から離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。

トラックへの積み降ろしのしかた

⚠ 危険：

- ・運搬に使用する自動車は荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- ・トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- ・トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。
- ・本機の正面は危険ですので、真正面には立たないで下さい。
- ・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・トラックへの積み降ろし時、ナイフクラッチレバーは絶対に「」位置にしないで下さい。またブリッジ上で走行クラッチレバー、主・副変速レバー、サイドクラッチレバーの操作は絶対にしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- ・本機の左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。
- ・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで確実に固定し、荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。

積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ② 基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③ スロットルレバーは「」、「」の中間位置にして下さい。
- ④ 積み込む場合には、主変速レバーを前進「①速」位置、降ろす場合には後進「」位置にして行い、その他の位置には絶対に入れないで下さい。

⚠ 危険：

トラックへの積み降ろしの際には、ハンドルを押し下げて刈取部をブリッジ面から少し浮かして行って下さい。

刈取部のナイフがブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

- ・長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上のもの。
- ・幅…本機の車輪幅にあったもの。
- ・強度…本機の重量に十分絶え得るもの。
- ・スリップしないように表面処理が施してあるもの。

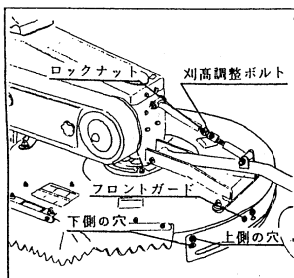
《 上手な作業のしかた 》

草刈り作業

⚠ 危険：

- ・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に取り除いて下さい。
- ・圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜（限界傾斜角度10°）のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。
- ・転落や衝突事故を防ぐため、建物、川やガケ、人のいる方向に向かっての作業は行わないで下さい。
- ・ナイフからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行って下さい。
- ・作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、メガネを必ず使用して下さい。
- ・作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないように、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径10m以内にこれらのものを近づけないで下さい。
- ・刈り取られた草は、本機の右吐き出し口より吐き出されるため、障害物に対し常に本機を右側に位置させて下さい。また、石等の異物が多い場所での草刈り作業についてはこれらの飛散による被害を防止するため高刈りをする等、十分に注意して下さい。

参考：初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと刈り跡が少し重複するようにまっすぐ刈って下さい。



- ①作業状況に合わせて刈高調整ボルトで前単輪の高さを調整し、調整後はロックナットで確実に固定して下さい。
- ②フロントガードを作業条件に合わせて上下いずれかの位置で確実に固定して下さい。
- ③エンジンを始動させて下さい。

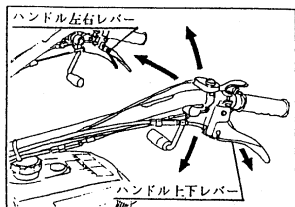
〈10頁…エンジン始動のしかた参照〉

参考：

- ・小石やその他の異物が多い圃場ではフロントガードは必ず上側の穴で固定して作業をして下さい。下側の穴で固定したまま作業を行うと、ナイフカバーよりの異物の飛散が多くなり非常に危険です。

⚠ 危険：

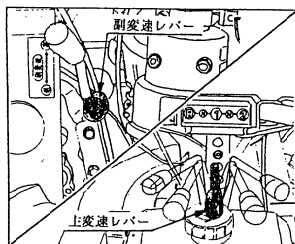
フロントガードの左右を入れ替えて固定して作業をすることは絶対にしないで下さい。ナイフが剥き出し状態となり作業中の異物の飛散により作業者はもちろん周囲にも甚大な被害を及ぼす恐れがあります。



- ④ハンドル上下・左右レバーで作業内容や作業者の体格に合わせてハンドルの上下・左右の位置を調整して下さい。

参考:

木の下、垣根わき等ではハンドルを左右に振ると体を避ける事なく作業ができます。



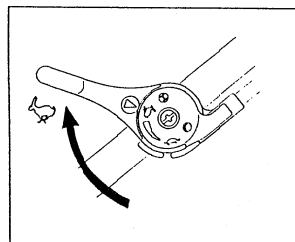
- ⑤変速レバーを「①速」位置にして下さい。



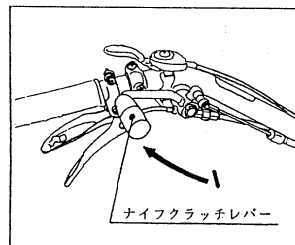
危険:

安全のため、最初は【低速】「①速」位置からスタートし、周囲の安全を確かめたうえで作業条件にあった速度にして下さい。

〈主・副変速レバー位置は13頁参照〉



- ⑦スロットルレバーを高速「」の位置にして下さい。

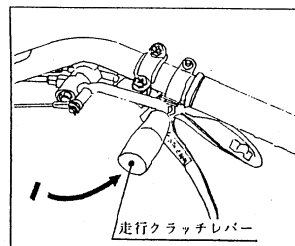


- ⑧ナイフクラッチレバーをゆっくりと引き上げて「」位置にして下さい。

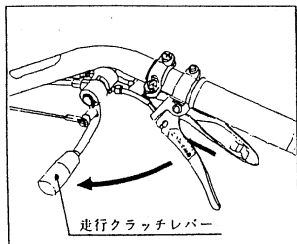
参考:

一気に「」位置にするとエンストする恐れがありますので、ゆっくりと操作して下さい。

※…ナイフが高速回転しますので十分に注意して下さい。

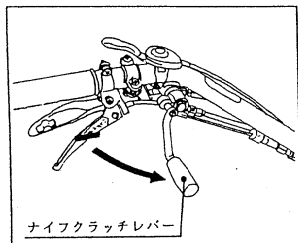


- ⑨次に走行クラッチレバーをゆっくりと引き上げて「」位置にすると作業を開始します。



⑩作業を停止する場合には、まず走行クラッチレバーを押し下げて「切」位置にして本機を停止させて下さい。

- 右手親指で走行クラッチレバーを押し下げる事によって、ハンドルから手を離さずに操作することができます。



⑪その後ナイフクラッチレバーを押し下げて「切」位置にして下さい。

- 走行クラッチレバーと違い、左手親指による操作はできません。しっかりと手で握って操作して下さい。ブレーキ付き多板クラッチにより、ナイフは約3秒以内に停止します。

⑫エンジンを停止させて下さい。

〈12頁…エンジン停止のしかた参照〉

⚠ 危険：

- ・安全のため、本機から離れるときは必ずエンジンを停止して下さい。

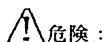
〈12頁…エンジン停止のしかた参照〉

- ・ナイフの回転中はナイフカバー内側一杯までナイフがきますので、作業中絶対に草等をナイフカバー内に足等で蹴り入れないようにして下さい。
- ・作業中障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するため点火プラグキャップを点火プラグから外し、損傷を調べて下さい。異常があればすぐに修理して下さい。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

※注意：

- ・草の量が多くエンジンがストップするようであれば作業速度を一段落とすか、刈り高さを上げるか、二回刈りをして下さい。
- ・ナイフカバーより石等の異物が頻繁に飛散するようであればフロントガードの上側の穴で固定するか、刈り高さを上げて下さい。
- ・エンジンに草、木の葉等を堆積させないで下さい。これら可燃物が堆積すると火災の原因になったり、本機を破損する場合があります。

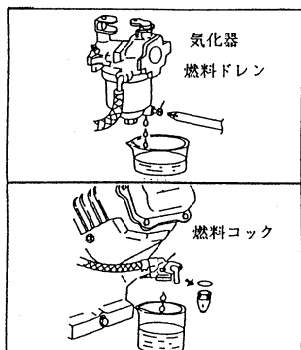
《 長期保管のしかた 》



危険：

★エンジンを停止して下さい。〈12頁参照〉

- ・くわえタバコや裸火照明での作業禁止。
- ・本機を保管する場合には、固い平坦な場所で本機を水平にして下さい。
- ・燃料を抜く時は火気厳禁。
- ・風通しの良い場所で行って下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラーが冷えてから行って下さい。
- ・抜いた燃料の取扱いは十分に注意して下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈21頁参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスターター、エアークリーナー、マフラー、気化器付近やベルトカバー内に堆積した草やホコリをエアー吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

☞…草やホコリが堆積したまま作業を続けると

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因にもなりかねません。

参考：ナイフカバー内に付着した草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的に簡単に洗い落とすことができます。

☞…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアークリーナー、マフラー排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤各給脂・注油箇所それぞれ注油をしておいて下さい。

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

※注意：

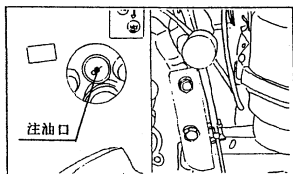
- ・出荷時本機にはオイルは入っておりません。使用前には必ず指定の箇所に指定のオイルを指定の量だけ入れて使用して下さい。
- ・定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所においてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約5分以上)待ってから作業を行って下さい。

◇…エンジン停止後、すぐに作業を行うと

- ＊エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
- ＊エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確な量が示されません。
- ・安全のため、作業が終了するまでは点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

ミッションオイルの注油・点検・交換

ミッションケース



◎注油…

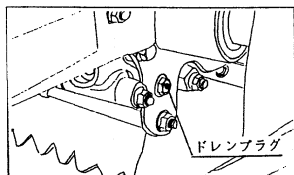
ミッションケース左側面上部のメクラ蓋を取り外し、中の注油口よりミッションオイル(#90)を1.6ℓ入れて下さい。

◎点検…

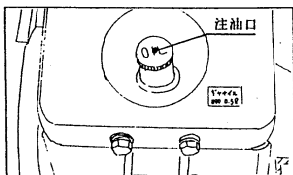
注油口よりミッションオイルが目視で確認出来ればほぼ規定量入っています。

◎交換…

初回は20時間目、それ以降は100時間運転毎を目安にミッションケース右側面下部のドレンプラグ(排油口)を外して行って下さい。



ナイフギヤボックス



◎注油…

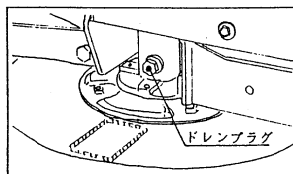
ギヤボックス上部のメクラ蓋を取り外し、中の注油口よりミッションオイル(#90)を0.5ℓ入れて下さい。

◎点検…

エンジンを停止し、注油口より見て、下側のベベルギヤがミッションオイルに浸かっているればほぼ規定量のミッションオイルが入っています。

◎交換…

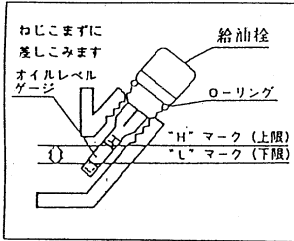
初回は20時間目、それ以降は100時間運転毎を目安にギヤボックス左側面のドレンプラグ(排油口)を外して行って下さい。



※注意：

作業終了後、メクラ蓋は元のとおりに取り付けておいて下さい。

エンジンオイルの注油・点検・交換



◎注油…〈10頁…エンジン始動のしかた参照〉

◎点検…

- ・給油栓についているレベルゲージでエンジンオイルの質・量を毎日、もしくは8時間使用毎に点検して下さい。
- ・常にレベルゲージの上限までエンジンオイルが入っていることを確認して下さい。

◎交換…

- ・初回は20時間目、それ以降は50時間運転毎を目安に交換して下さい。
- ・交換はオイル給油栓を外し、エンジン後部にあるドレンプラグ(排油口)を工具を使って外して行います。エンジンオイル排出後は、工具を使ってドレンプラグを元のとおり確実に締め付けておいて下さい。
- ・エンジンオイル注油後、オイル給油栓を緩まないように手で確実に締め付けて下さい。

●使用するエンジンオイルの質・量については9頁参照のこと。

参考：

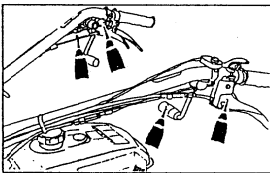
- ・エンジンオイルの注油・交換は暖機運転後、エンジンを停止し約5分以上経ってから火傷に注意して行って下さい。
- ・給油栓、ドレンプラグの締め付けがゆるいとオイルがにじみ出ることがあります。

各部への注油のしかた

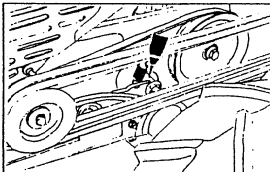
◎約30時間毎にグリース又はエンジンオイル(#30)を確実に注油して下さい。

注油を怠ると油切れにより操作が重くなり、最悪の場合破損の恐れもあります。

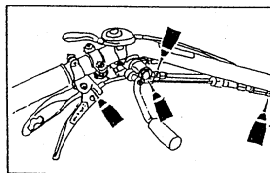
サイドクラッチワイヤー・レバー支点



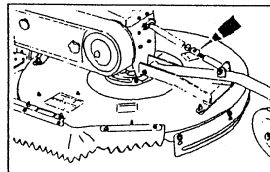
走行クラッチテンションアーム支点



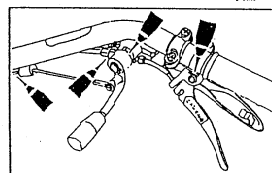
ナイフクラッチ、ハンドル上下ワイヤー・レバー支点



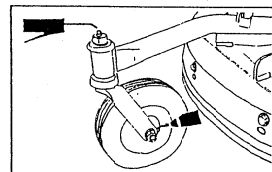
刈高調整ボルト



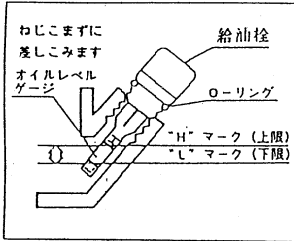
ハンドル左右、走行クラッチワイヤー・レバー支点



前輪上部ニップル(グリース)、前輪輪軸



エンジンオイルの注油・点検・交換



◎注油…〈10頁…エンジン始動のしかた参照〉

◎点検…

- ・給油栓についているレベルゲージでエンジンオイルの質・量を毎日、もしくは8時間使用毎に点検して下さい。
- ・常にレベルゲージの上限までエンジンオイルが入っていることを確認して下さい。

◎交換…

- ・初回は20時間目、それ以降は50時間運転毎を目安に交換して下さい。
- ・交換はオイル給油栓を外し、エンジン後部にあるドレンプラグ(排油口)を工具を使って外して行います。エンジンオイル排出後は、工具を使ってドレンプラグを元のとおり確実に締め付けておいて下さい。
- ・エンジンオイル注油後、オイル給油栓を緩まないように手で確実に締め付けて下さい。

●使用するエンジンオイルの質・量については9頁参照のこと。

参考：

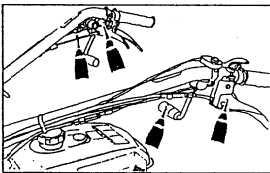
- ・エンジンオイルの注油・交換は暖機運転後、エンジンを停止し約5分以上経ってから火傷に注意して行って下さい。
- ・給油栓、ドレンプラグの締め付けがゆるいとオイルがにじみ出ることがあります。

各部への注油のしかた

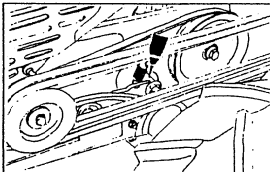
◎約30時間毎にグリース又はエンジンオイル(#30)を確実に注油して下さい。

注油を怠ると油切れにより操作が重くなり、最悪の場合破損の恐れもあります。

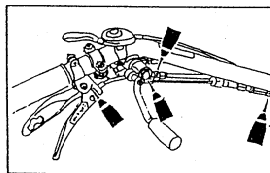
サイドクラッチワイヤー・レバー支点



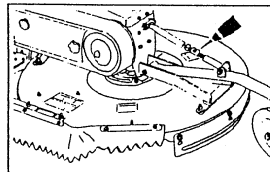
走行クラッチテンションアーム支点



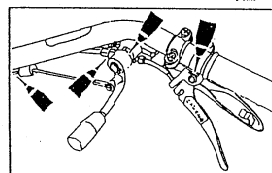
ナイフクラッチ、ハンドル上下ワイヤー・レバー支点



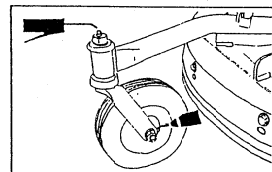
刈高調整ボルト



ハンドル左右、走行クラッチワイヤー・レバー支点

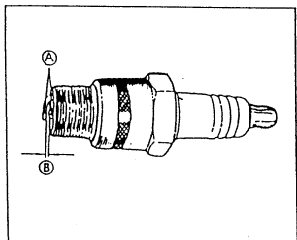


前輪上部ニップル(グリース)、前輪輪軸



《各部の点検・整備・調整のしかた》

点火プラグの点検・調整のしかた



- ① プラゲレンチで点火プラグを外し、電極部分 (A) にカーボンが付着していたらワイヤーブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③ 点火プラグの電極隙間 (B) を0.7～0.8mmに調整して下さい。

参考：

締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラゲレンチを使用して下さい。

始めからプラゲレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

◇…点火プラグ基準 (NGK) 30頁…仕様参照

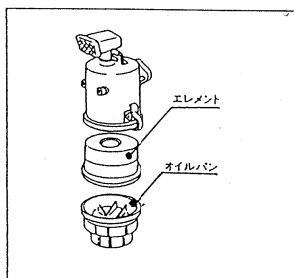
	カワサキ	メイキ	クボタ
AM80	BP5ES		BP6HS

エアークリーナーの清掃のしかた



危険：

エアークリーナーが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより火災の原因ともなりますので必ず定期的に清掃して下さい。



- ① 二か所のクランプを外し、オイルパンを外します。
- ② オイルパン内にたまった草屑、泥等を白灯油できれいに洗浄し、新しいエンジンオイル (SAE10W-30相当) をレベルまで入れて下さい。
- ③ フォームエレメントは中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後新しいエンジンオイル (SAE10W-30相当) に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ④ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

※注意：

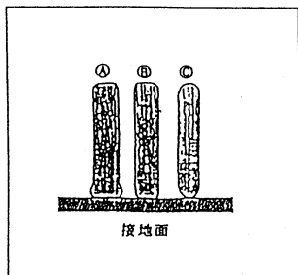
- ・洗浄する場合、エレメントを強く引っ張ったり、もんだりしないで下さい。エレメントが破れます。

◇…エアークリーナーの清掃、交換時期について

	清掃	交換
エアークリーナーオイル …	—	5 0 時間毎
フームエレメント …	2 5 時間毎	3 0 0 時間毎

- チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁(上記時間の約半分に達しない時点で)清掃するように心掛けて下さい。

タイヤ空気圧の調整のしかた



- ・タイヤの空気圧を、 1.4kg/cm^2 位に調整して下さい。
- 左右の空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

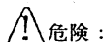
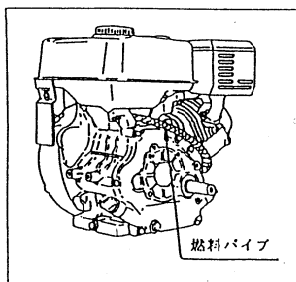
- ・外観から判断する目安は左図の通りです。

Ⓐ：不足

Ⓒ：過剰

Ⓑ：適正

燃料パイプの点検のしかた



危険：

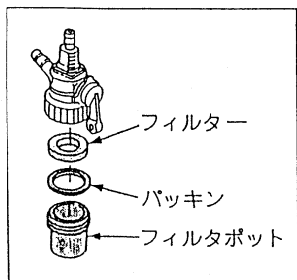
くわえたばこや裸火照明での作業禁止

- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

※注意：

パイプ類の交換時にパイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルターボットの清掃のしかた



⚠ 危険：

くわえたばこや裸火照明での作業禁止

- ・50時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
- ・作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
 - ①燃料コックを「閉」位置にして下さい。
 - ②燃料フィルターボットを外し、燃料フィルターボット内部及びフィルターを引火性の低い灯油等の溶剤で洗い、エアーを使って乾燥させて下さい。
 - ③元の通りに確実に組み付けて下さい。

⚠ 危険：

ガソリンやシンナー等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

※注意：

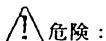
- ・各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ・各注油箇所に規定のオイルが規定量入っているか又、オイルの漏れはないか点検して下さい。
- ・もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
- ・オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。
- ・各オイルの量の確認は、必ずエンジンを停止し、本機を水平にして行って下さい。

その他の点検

- ①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）
- ②Vベルトは初期伸びが多少ありますので、2～3時間運転後張り直して下さい。
〈25頁…走行クラッチワイヤー、ナイフクラッチワイヤー調整参照〉
- ③本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ④各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。

〈32頁…定期自主点検表参照〉

各部ワイヤー・ベルト調整のしかた



危険：

各ワイヤーを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。

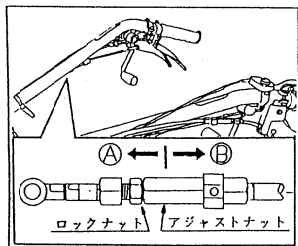


図 1

走行クラッチワイヤー

図 1 を参考に走行クラッチワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・走行クラッチレバーを「 $\textcircled{\text{A}}$ 」位置にしても負荷がかかると V ベルトがスリップする場合。

…アジャストナットを $\textcircled{\text{B}}$ の方向へ…

- ・走行クラッチの切れが悪い場合。

…アジャストナットを $\textcircled{\text{A}}$ の方向へ…

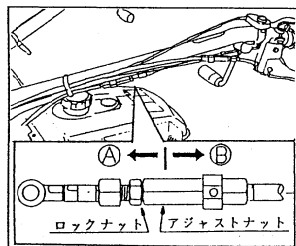


図 2

ナイフクラッチワイヤー

図 2 を参考にナイフクラッチワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・ナイフクラッチレバーを「 $\textcircled{\text{A}}$ 」位置にしても負荷がかかるとナイフの回転が停止する場合。

…アジャストナットを $\textcircled{\text{A}}$ の方向へ…

- ・ナイフクラッチの切れが悪くナイフクラッチを切ってもナイフの回転が停止しない場合。(約 3 秒以内で停止しない。)

…アジャストナットを $\textcircled{\text{B}}$ の方向へ…

※注意：

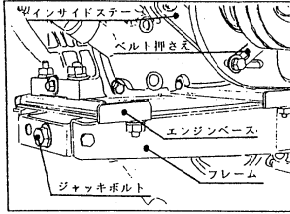
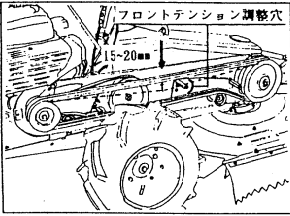
- ・ナイフベルトは常に張られた状態にあり、ナイフの「 $\textcircled{\text{A}}$ 」⇄「 $\textcircled{\text{B}}$ 」の操作はナイフクラッチワイヤーに接続されたブレーキ付き多板クラッチで行います。ナイフクラッチワイヤーの調整後にはナイフクラッチレバーを「 $\textcircled{\text{B}}$ 」位置にして、約 3 秒以内にナイフが停止するのを確認して下さい。

上記時間内にナイフの回転が停止しない、又はナイフクラッチワイヤーの調整だけではどうしても正常に戻らない場合には多板クラッチの摩耗、焼き付きが考えられます。この場合には多板クラッチの交換が必要となりますので、お買い上げいただいた販売店まで修理をご依頼下さい。

- ・走行ベルト、ナイフベルトは共に消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。調整時期は以下の通りです。

	走行ベルト	ナイフベルト
V ベルトサイズ	SBR-38×1 本	SBR-83×2 本
調整・点検時期	初回：20 時間目	以後：100 時間運転毎

ナイフベルトの調整

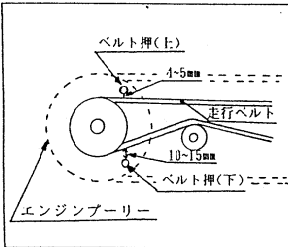


適正なベルト張力の目安は、ベルト中央部を軽く指先で押した時にベルトが各々15~20mm程度たわむのが正規です。上記範囲以外でベルトがたわむ場合には以下の要領で正規のベルト張力に調整して下さい。

- ① リヤベルトケース (OUT)・フロントベルトケース (OUT) をそれぞれ取り外して下さい。
- ② エンジンベースとフレームを固定している4カ所のボルト・ナットを緩めて下さい。
- ③ インサイドステーとベルト押さえを固定しているボルト・ナットを緩めて下さい。
- ④ ジャッキボルトを回転させてエンジンを前後に移動させ、適正なベルト張力に調整して下さい。
- ⑤ ジャッキボルトでも調整し切れない場合にはフロントテンションの固定穴位置を変えて(3段階)ベルトの張りを調整して下さい。
- ⑥ 調整後は上記の手順を逆に追ひ、各ボルト・ナット・カバーは確実に元のとおりセットして下さい。

走行ベルトの調整

ベルト交換時、又はナイフベルトの調整後は左図を参考に走行ベルトの調整も必ず同時に行って下さい。



※注意：

エンジン位置をずらして調整をする場合には、ナイフベルトと走行ベルトは両方ともに行い、どちらか片方のみの調整はしないで下さい。エンジンプーリーには両方のベルトがかかっており、ナイフベルトと走行ベルトは相關関係にあります。

- (1) 2カ所のベルト押さへの調整は左図を参考にして行い、走行クラッチレバーは「㊤」位置にして行って下さい。
- (2) 目安としては、走行クラッチレバーが「㊤」位置の時に、ベルト押さえがベルトを軽く押さえ、ベルトがプーリーの溝より軽く浮き上がるようにセットします。
- (3) ベルト押さえはエンジンプーリーの約1/3程度の部分に位置させて下さい。

ハンドル上下ワイヤー

図3を参考にハンドル上下ワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・レバーを操作してもハンドルの上下ができない場合。
…アジャストナットを㊤の方向へ…
- ・ハンドルの上下にガタが多く、負荷がかかるとレバー操作しなくてもハンドルが上下してしまう場合。
…アジャストナットを㊤の方向へ…

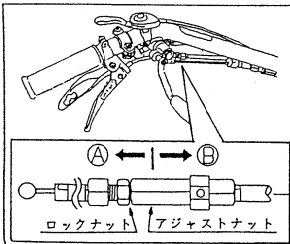


図3

ハンドル左右ワイヤー

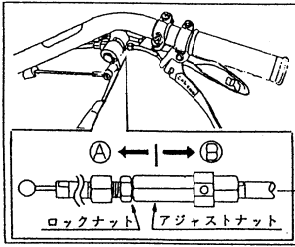


図 4

図 4 を参考にハンドル左右ワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・レバー操作してもハンドルが左右できない場合。
…アジャストナットを(B)の方向へ…
- ・ハンドルの左右にガタが多く、負荷がかかるとレバー操作しなくてもハンドルが左右に動いてしまう場合。
…アジャストナットを(A)の方向へ…

サイドクラッチワイヤー

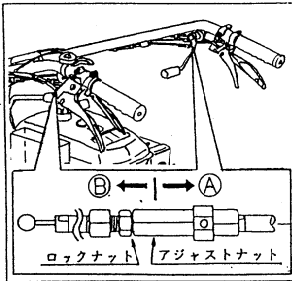


図 5

図 5 を参考にサイドクラッチワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・サイドクラッチレバーを離しても負荷がかかるとサイドクラッチが抜ける場合。
…アジャストナットを(B)の方向へ…
- ・サイドクラッチレバーを握ってもサイドクラッチが抜けない場合。
…アジャストナットを(A)の方向へ…

参考：

- 各レバーにはいずれもレバー根元での遊びが3~5mm程度になるように調整して下さい。
- 調整後はいずれもロックナットを確実に締め付けておいて下さい。

《ナイフの点検・交換・修正のしかた》

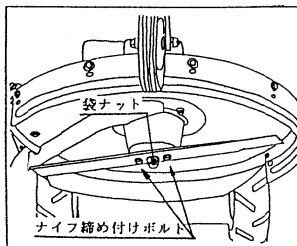
ナイフの点検・交換

- ◎ 作業を安全に行うために、必ずエンジンを停止した後にナイフの作業前点検を行って下さい。



危険：

- ・作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、曲がりや欠損が生じていないか点検して下さい。異常が発見された場合には新品と交換して下さい。
- ・ナイフの摩耗、割れ、曲がり等を放置すると、ナイフが折損して飛び出し、作業人や付近にいる人に当たったりして、重大な人身事故を招くことがあります。
- ・ケガを避けるため、点検・交換は丈夫な手袋をつけるか、又は布切れでナイフの先端を包んで行って下さい。
- ・この点検・交換は、一人では行わず、必ず二人で行いハンドルをしっかり支えてもらい前部が落下しないように注意して下さい。
- ・ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- ・ナイフ締め付けボルト、ナットも摩耗します。ナイフを交換する際には必ずナイフ締め付けボルト、ナットも同時に交換するようにし、決して他のボルト、ナットで代用はしないで下さい。
- ・作業をする時は手を滑らさないように十分注意して下さい。



- ①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。〈11頁…エンジン停止のしかた参照〉
- ②本機を後側へ傾斜させて下さい。
- ③ナイフ締め付けボルトが緩んでいないか点検して下さい。

★交換の際には元のとおりにしっかりとナイフ締め付けボルト、ナットを締め付けておいて下さい。

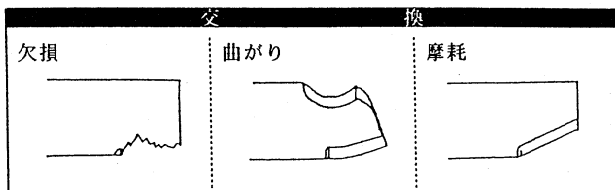
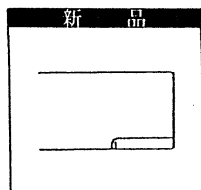
〈ナイフは、二本のユルミ止めボルトと一個の袋ナットで取り付けられています。〉

※注意：

- ・長時間傾斜させたまま放置しないで下さい。始動性が悪くなることがあります。

- ④ナイフの割れ、曲り、摩耗を点検して下さい。

下図の様に異常な状態になっていたら裏返して使用するか交換して下さい。

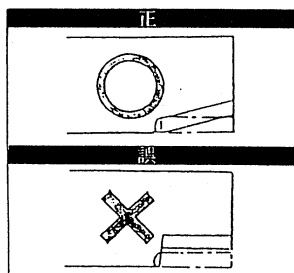


参考：

- ・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻繁に点検して下さい。
- ・予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお勧めいたします。

ナイフの修正

★修正を行うとナイフの初期の性能が損なわれることをご承知おき下さい。★



①ナイフを取り外して下さい。〈28頁参照〉

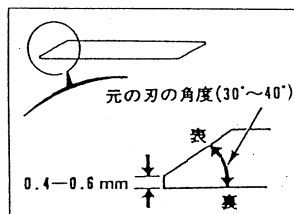
②以下の要領でナイフを研磨して下さい。

- ・ナイフを研磨するときは、ナイフをしっかりと保持して下さい。

- ・ナイフを元の刃と平行に研磨すると、破損の原因となります。

左図の様に研磨して下さい。

- ・ナイフのバランスを崩さないように使用する両側の刃を同量研磨して下さい。



③刈先には0.4~0.6mm程度の平らな部分を残しておいて下さい。カミソリのように刃先をとがらせると、すぐに刃先が摩耗し切れ味が鈍ります。

参考：

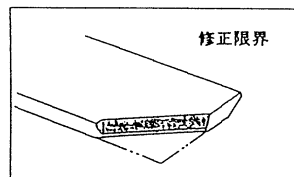
グラインダー等で研磨する際には、水をかけながらナイフ自体の温度を上げないようにして少しずつ研磨して下さい。

※…ナイフの温度が上がり過ぎると熱変化により摩耗速度が早くなります。



危険：

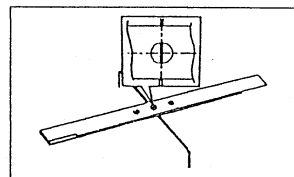
- ・グラインダーを使用する際には必ず帽子、厚手の手袋、防護メガネ等をつけて安全に注意して行って下さい。



④刃先が左図のようになったら、新しいナイフと交換して下さい。

⑤研磨、金ノコの刃、定規等の薄板の上に穴の中心を合わせ、ナイフのバランスをテストして下さい。左右どちらかがわずかでも下がったら、下がった方の刃の部分を再度研磨して下さい。

バランスが取れない場合は、ナイフを交換して下さい。



⑥ナイフを元のとおりにしっかりと取り付けして下さい。

※注意：

- ・ナイフのバランスが取れていないと、異常振動が生じ、本機を破損する恐れがあります。

《 仕様 》

名 称		オートモア					
型 式 名		A M 8 0					
全長×全幅×全高(mm)		1,720×870×830					
刈 幅(mm)		800					
刈 高(mm)		10～80					
ナイフ(枚)		バーナイフ(両面)×1					
ベルト (本)	走 行	SB38×1本					
	ナイフ	SB83×2本					
重 量(Kg)		129					
タイヤサイズ		16×700-8(φ400)					
ハンドル上下		手元レバー式(上下4段階)					
ハンドル左右		手元レバー式(中心と左右各2カ所ずつ21°間隔)					
走行クラッチ方式		ベルトテンション					
ナイフクラッチ方式		ブレーキ付き多板クラッチ					
操 行 装 置		サイドクラッチ(ボールスプライン)					
速 度 (Km/h)	副変速レバー位置	低	高	低	高	低	高
	主変速レバー位置	①	①	②	②	R	R
	前 進	①1.26	②1.97	③3.16	④4.89	—	—
	後 進	—	—	—	—	①1.38	②2.14
作業能率(a/h)・(直線10m)		①11.5		②18.4		③28.8	
エ ン ジ ン	名 称	カワサキ					
	型 式 名	F E 2 5 0					
	最大出力(PS)	8.0					
	始動方式	リコイル					
	点火プラグ(NGK)	B P 5 E S					
	燃料タンク容量(ℓ)	5.3					

※本仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

《 工具袋・同梱品明細 》

No.	部 品 名	規 格 ・ 寸 法	個 数
①	取扱説明書		1
②	品質保証書		1
③	エンジン工具	エンジン付属品	1
④	両口スパナ	10×12	1
	〃	14×17	1
⑤	片口スパナ	24m/m	1
⑥	ゴーグル(顔タイプ)	保護具	1

《 消耗品明細 》

NO.	部 品 名	部 品 番 号	個/台	備 考
①	ナ イ フ	80-1455-821-00	1	
②	Vベルト(走行)	89-6123-003801	1	SA38
③	Vベルト(ナイフ)	89-6123-008301	2	SB83
④	走行クラッチワイヤ	83-1310-931-00	1	
⑤	ナイフクラッチワイヤ	83-1565-941-00	1	
⑥	サイドクラッチワイヤ	83-1425-937-00	2	
⑦	ハンドル左右ワイヤ	83-1425-965-00	1	
⑧	ハンドル上下ワイヤ	83-1425-965-00	1	
⑨	スロットルワイヤ	83-1415-951-00	1	
⑩	袋ナット(ホソ)M16	89-1572-160042	1	
⑪	バネ座金 φ16	89-1750-160002	1	
⑫	六角ボルト(8T)M10×25	89-1113-100252	2	
⑬	バネ座金 φ10	89-1750-100002	2	
⑭	ナイフネックガード	80-1455-836-00	1	
⑮	多板クラッチ A S Y	80-1565-530-00	1	
⑯	危険マーク ㊸	83-1515-911-00	1	
⑰	〃 ㊹	83-1515-907-00	1	
⑱	〃 ㊺	83-1515-908-00	1	
⑲	〃 ㊻	83-1483-913-00	1	
⑳	〃 ㊼	83-1484-921-00	2	手や足を…
㉑	注意マーク ㊽	83-1516-915-00	1	安全の為…
㉒	〃 ㊾	83-1516-922-00	1	刈取部周辺は…
㉓	〃 ㊿	83-1516-908-00	2	このカバーなしの…
㉔	〃 ㊿	83-1487-908-00	1	保管・火災注意…

《 定期自主点検表 》

★点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月例点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項 目		点 検 内 容		点検実施時期	
				始 月 年	例 次
原 機	本 体	① かけ具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○
		② 回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○
		③ 排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○
		④ エアークリーナーの損傷、緩み、汚れ	損傷なく、取付け部に緩み、著しい汚れはないか。	○	○
		⑤ シリンダーヘッドと各マニホールド締付け部の緩み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 * (正常締付けトルクで緩みはないか。)		○
		* ⑥ 弁すきま	(正規のすき間であるか。)		○
		* ⑦ 圧縮圧力	(正規の圧縮圧力であるか。)		○
		⑧ エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに緩みはないか。	○	○
	潤滑装置	① 油量、汚れ	オイルの量は適切か。オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○
		② 油漏れ	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○
	燃料装置	① 燃料漏れ	燃料の漏れはないか。	○	○
		② 燃料フィルターの詰まり	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○
	電気装置	① 電気配線の接続部の緩み、損傷	ハーネス接続は適切か、又緩み、損傷はないか。		○
伝 達 装 置 等	V ベルト	① 緩み	ベルトの張り具合は適切か。	○	○
		② 損傷、汚れ	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○
	ミ ッ シ ョ ン	① 異音、異常発熱及び作動	作動に異常はないか、又異音、異常発熱はないか。		○
		② 油量、汚れ	オイルの量は適切か、又著しい汚れはないか。		○
		③ 油漏れ	オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○
車 体	車 体	① 亀裂、変形及び取付けボルト・ナットの緩み、脱落	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。	○	○
	カ バ ー	② 亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食はないか。		○
	レバー及びワイヤー	① レバー及びワイヤー類の損傷、緩み、ガタ、割ビンの欠損	作動及び取付け状態。著しい損傷及び緩み、ガタ、脱落はないか。	○	○
走 行 装 置 等	タ イ ヤ (ホイール)	① 空気圧及び溝の深さ	基準値内であること。	○	○
		② 亀裂、損傷及び偏摩耗	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○
		③ 金属片、石その他の異物の噛み込み	異物の噛み込みはないか。	○	○
		④ ボルト・ナットの緩み、脱落	ボルト・ナットの緩み、脱落はないか。	○	○
		⑤ ガタ、異音	取付け部に異音、ガタはないか。		○
	表示マーク	① 損傷	注意・危険・指示銘板が損傷なく取り付けられているか。		○

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《刈り取り性能診断》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
刈草がうまく放出されない。	草がしめっている。	草が乾燥してから作業する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
刈残しが出る。	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。(エンジン回転をチェックする。)
	草が長い。	二度刈りをする。
	ナイフの磨耗、破損。	新しいナイフと交換する。
	ナイフカバー内面への草の堆積。	ナイフカバー内面をきれいに清掃する。
土削りが発生する。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	旋回速度が速い。	旋回時の速度を落とす。
	地形にうねりがある。	草刈作業のパターン(刈取方向等)を変える。
	地形に起伏(凸凹)が多い。	刈高さを高くする。
	ナイフの曲り。	新しいナイフと交換する。
ベルト(多板クラッチ)がスリップする。	ベルト張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	ナイフカバー内に草が詰まっている。	詰まった草を取り外し、ナイフカバー内をきれいにする。
	ブーリーへの草の堆積。	ブーリーをきれいに清掃する。
	ベルトの磨耗。	新しいベルトと交換する。
	多板クラッチの摩耗。	多板クラッチの交換。
振動が大きい。	ナイフカバー内及びブーリーに草が堆積している。	ナイフカバー及びブーリーをきれいに清掃する。
	ベルトの破損。	新しいベルトに交換する。
	ブーリーの破損。	新しいブーリーに交換する。
	ナイフの破損。	新しいナイフに交換する。
	ナイフネックガード内に草屑が蓄まっている。	ナイフネックガード内を清掃する。
刈取作業負荷が大きい。	ナイフのバランスが悪い。	新しいナイフと交換するか、ナイフのバランスを取る。
	エンジン回転が低い。	エンジン回転数を最高にする。(エンジン回転数を チェックする。)
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	ナイフの回転軸回りに草が堆積あるいは巻付いている。	ナイフをきれいに清掃する。
	フロントガードが上側の穴で取り付けられている。	フロントガードを下側の穴で固定する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
多板クラッチから煙が出た。	多板クラッチの焼き付き。	多板クラッチを交換する。
	ナイフカバー内に草が詰まっている。	詰まった草を取り外し、ナイフカバー内をきれいにする。
	ブーリーへの草の堆積。	ブーリーをきれいに清掃する。

※分からない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

《 エンジンの不調とその処理方法 》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し適切な処理をして下さい。

現 象	原 因	処 理
始動困難な場合。	アクセルレバーが「始動」の位置でない。	アクセルレバーを必ず「始動」の位置にする。
	チョークレバーを引いていない。	エンジンが冷えている時、チョークレバーを引いて始動する。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を取り除く。 燃料コックのストレーナーカップを取り外し、カップ内の沈殿物を除去すると共にフィルターに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	バルブ及び締め付けバンドを点検し、損傷があれば新品と交換又は補修しておく。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	気温によってオイルの使い分けをする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極のスキマを点検し調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合。	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアークリーナーの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	シリンダー・ピストンリングの摩耗。	リングを交換する。
突然停止した場合。	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが開いていない。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。
マフラーから黒煙が出て出力が低下した場合。	エアークリーナーエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークレバーを完全に戻す。
マフラーから青白煙が出た場合。	エンジンオイルの入れ過ぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダー・ピストンリングの摩耗。	リングを交換する。

※わからない場合は、お買い上げ頂きました販売店にご相談下さい。